

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して。。。)

記入年月日	平成 19年 11月19日
事業所名	グループホーム たけのこ 85 番地
事業所番号	2372001418
記入者名	職名ユニットリーダー 氏名 伊奈 裕輔
連絡先電話番号	0532-45-6213

(様式1)

自己評価票(たけのこ88番地)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いつまでも普通に暮らせるノーマライゼーションを基本理念とし、10項目の法人の理念を挙げている(5)。理念の中に地域の方との連携を大切にするという事を掲げている(3)。たけのこの行事、七夕祭、盆踊り大会などの案内を出し地域の方にも参加してもらい、ホーム内をオープンにしている。通所介護を7月より行っており、現在は5名の方が利用し、入居者と共に生活をしている。地域の店(ヤマカ、JA)へ買い物に行く、ことで地域の方にホームを理解していただくよう努めている。	○ 認知症に関する勉強会を開催したり、地域の高齢者の方が気軽にホームに来れるような環境を作る事でより地域の方々と触れ合う機会をつくっていききたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝の申し送り時に理念を唱え確認している(11)。ノーマライゼーションを基本とし笑顔での対応を心掛け利用者の個別性を大切にしている。寝たきりにさせない為の散歩を行っている。たけのこ理念8・9は職員オリジナルである。行事などの計画に関しても管理者と相談しながら行っている。職員は個人日誌をつけ日々管理者と意見交換をし理念の実践について確認している。実現のためにどのように取り組んで行くかや個々のスタッフがどのように考えているかは分からない。自己評価結果を全職員で共有することで、職員の思いを知ることができる。	○ 職員皆がどのように考えているか話し合う機会を増やしていきたい。月初めに全体での目標を掲げてみる案を提案したい。自己評価の項目と運営理念の項目を照らし合わせることで、理念の実践が行われているかを確認していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議に外部評価結果を公開している。今回の自己評価も運営推進会議に公開し、助言をもらうことにしている。たけのこ新聞を発行している。色々な行事に家族の方や地域の方を招待している(2)。こまめに連絡する。家族、地域の方々を含めて運営推進会議を行っている(4)。家族や地域の方に参加してもらいながら利用者と一緒に行事に取り組んでいる。就職説明会をかね認知症勉強会を開催する際には、高校、専門学校、ケアマネジャーなどに呼びかけている。わかりません(1)。	○ 家族や地域の方にたけのこの理念を理解してもらうためには、職員それぞれが的確にグループホームの役割や意義を理解しておく必要がある。職員が日々の仕事を通してグループホームとは何かについて理解を深めていけるよう伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	年中行事を地域にオープンにして開催している。ホームでの行事の際チラシを作り配布し、近所の方や家族に来て頂いている。ユニット毎に85番地、88番地と普通の家のような住所を付けている。回覧板を利用者と一緒に町内に回しに行っている。いつも玄関は鍵を開けておりいつでも立ち寄ってもらえるようにしている。散歩のときにあいさつしたり、会話をしている(7)。同敷地内にある陶芸工房で毎週土曜日に陶芸教室を行い工房に来る方々も気軽に立ち寄れる(4)。行事にも参加して頂けるよう声をかけている。	○ 外庭での活動を増やし地域の方や利用者の家族が気軽に話をしに来ることができる機会を増やしていきたい。地域の農家の方に作物の作り方を学ぶ等ホームを活用した地域との交流も検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	七夕会、盆踊りを地域の方と楽しむことができた。地域の神社の餅投げに参加している。9月に磯辺保育園で敬老会(7)があり、子ども達と触れ合う機会があった。地区市民館で行われる文化祭(笹やか展)に出展できる部屋を提供してもらい参加し、利用者さんの作品や写真を飾り、地元の方々に展示を見てもらうということでのたけのこでは何をしているか、どういった所なのか知ってもらうようになっている(8)。	○	子ども達(園児、小学生)との交流を増やしていきたい。運営推進会議で、園児、小学校、老人会との関わりが深まるよう提案していきたい。
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	共用型デイサービスの利用。敷地内で陶芸教室を開いている。散歩などで地域の方との交流はできている。ホームで行う行事に参加してもらい、利用者さんと地域の高齢者の方との交流を図っている。又その中でスタッフも交流を図るようにしている。利用者支援で精一杯で地域の高齢者の暮らしまで話し合えていない。地域の高齢者の暮らしに役立つことがどういう事かわからない。	○	家にみえる高齢者の方の楽しみ(折り紙、将棋等)を利用者の方に教えていただき一緒に楽しめるサービス。困っているような事があればいつでも飛び込めるような、地域の相談窓口になれるようなホームにできたら良いと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員参加が自己評価を行っている。話し合いの機会をもつ事で利用者の一人一人の問題点等を把握し改善にむけている。評価は今回が初めてなので分かりません。外部評価を受ける事で、客観的な意見を聞き、改善すべき所が多く見えてくると思う。できていないことを見直し改善に取り組んでいる。自己評価結果を踏まえユニット会議を行い、問題点を出し改善に向けた話し合いを始めている。その場限りで終わってしまっていた。自己評価結果は参加した全職員へ集計したものを配布し、そこから、各ユニット会議で、改善策を討議していく予定である。	○	皆で改善に向けて話し合い取り組んで行き、定期的に見直しをしていく予定である。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では職員はなるべく参加し、利用者も参加するようにしている。家族に参加してもらいどのような方針で利用者に関わっているのか伝えている。日常生活でやった事(外出、行事、散歩、調理)はプロジェクターを用意して見てもらい意見してもらう(3)。地区の運動会への参加、散歩道にベンチを置けないか、利用者が柿などを盗んでくることなどへの対応について意見を聞き参考になっている。利用者一人一人の問題点等報告し良い介護につながるよう話し合い意見を求めている。勤務が休みだったのでこれまで運営推進会議に参加したことがない。	○	全ての職員が運営推進会議に参加できるように勤務表を組んでいきたい。あらかじめ話し合う内容を送って準備して臨んでもらうようにする。利用者の方々が運営推進会議の場でもっと発言しやすいように工夫していく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には2ヶ月ごとに運営推進会議の報告を提出したり、指定基準のことなどで相談や要望を行ったりしている。わからない(8)	○	職員に市町村にどのような働きかけをしているかが伝わっていないので職員にも伝えていくことが必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中でこの制度を利用している方がいるのできちんと理解する必要がある。パンフレットだけでなくきちんと学ぶ機会が欲しいと思う。学ぶ機会を次回の研修でもっと聞いている。必要な人に活用できている。研修等で学ぶ機会を得たスタッフはいるが、スタッフ全体が理解していない。わかりません(2)。	○	職員全体の理解を深めるため社内研修を開いていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	働いている中で殆ど虐待について考えたり、疑問を持ったりした事がない。虐待はない。職員が常に一人一人を注意深く見て虐待を見過ごす事のないよう注意している(3)。身体虐待、心の虐待があると思うが、利用者の気持ちに立って接して行く事が必要だと思う。利用者の身体の状態や心の変化、ちょっとした変化にも気付くようにしたい。学ぶ機会はないが利用者の心身の変化を発見したときには記録に残したり報告している。家族に協力してもらい、利用者がどのような人なのか聞いている。家族の中にも利用者にあたってしまう方もいる、家族も苦悩しており支えになるように努めている。	○	虐待にあたる行為をどう捉えるかが重要となる。①体を傷つける行為(介護放棄も含む)②心を傷つける行為(言葉による暴力・からかい・無視)③金銭的な搾取④性的な行為。また、どの程度からが虐待になるのかについても職員間で話し合っていくことが重要である。また、疲れていたり、ゆとりがないときつくあたると、職員の介護ストレスや悩みへの対応も重要である。お年寄りへの虐待について社会でどの程度行われているかまず知る必要がある。虐待とはどのようなものか、自分達が行っている事は本当に正しいのかどうか再認識する為にも学ぶ機会が必要である。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書には利用者、事業所の権利と義務を記載をしている。十分な説明を重要事項説明書に基づいて行っている。利用者や家族が納得し、また理解していただけるように工夫しながら何度も話し合ったり、話し合う機会を持っている(2)。分かりません(4)		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は自由に発言できている。実行している(4)。普段の生活の中で不満の声を聞く事があれば、記録表や日誌に記入し改善できるよう心掛けているが、改めてそのような場を作ることはない。利用者になるべく話しかけ願いや思っている事を聞くようにしている。利用者の言動を聞き、その方がどういった心情にいるのかスタッフで話し合い運営に反映させている。ケア会議に利用者にも参加していただき意見を聞いている(2)。介護相談員が毎月1回訪問し自由に直接、利用者とは話することができる。	○	利用者の各居室を訪ね、一人一人に声をかける時間が持てれば良いと思う。相談員の方と話し合う機会を設けていきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の記録、その他で具体的に報告する努力している(3)。毎日の行動、食事量等記入した生活記録表を毎月家族に送っている(4)。家族の面会時等に現在のケアの内容、現状等伝える。利用者の日々の生活の様子等も伝えるようにしている。また運営推進会議に家族にも参加してもらい日々何をしているのか利用者の様子を伝えている。病院受診があった時は受診前と受診後に報告している。金銭面についても月一度家族に報告するようにしている。健康状態に異変があった際には、その都度家族の方へ連絡している(4)。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、利用者、運営者、職員を含めた運営推進会議を開いており、活動報告や意見交換を行っている。運営推進会議や月1回送る意見や要望を書く紙を渡し、意見を聞いている(4)。家族が見えたときの話し合いが少ない。もう少し希望等を聞き出しても良い。本音が出しにくいのではないか、世話になっているので意見を言うことに不安があると思う。	○	家族同士が本音で話せるよう、家族会を作れないまでも家族同士が交流する場をもうけていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送りやケア会議、業務ノート、月に1度のユニットミーティングやパート会議で意見を述べる場を設けている(9)。事務所と現場が近いためいつでも何かあると管理者に伝えに行ける環境である。管理者は職員の意見を聞く姿勢があり、その提案について皆で考える機会もある。職員同士意見を言い合う事が少ないので会議を増やすといい(出勤の関係もあり)ユニット会議では家族に言われている事や利用者の日々の様子などから議題を見つけ会議を行っている。ユニット会議で出した意見や提案をリーダーミーティング(運営者、管理者を含めた)で提案している。職員やパート会議の数が少ない。全体で話し合う機会がない。	○	毎日のケア会議や朝夕の申し送りで日に3回話し合う場がある。現在の話し合いの機会を有効に効率的に行えるよう工夫をしていくことを検討してほしい。さらに必要があれば全体で話し合う機会を行っていくことも検討をしていきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	努力しているが、難しい時もある。必要な人数は常に出勤していると思う。スタッフの数が少ない時と多い時の差が出てきてしまう。1ユニットだけでは回せない時、両ユニットが協力している。行事の日やデイ利用者が多い日は、職員の数を増やしている。しかし、少ないと思う日もたまにある。ユニット会議を毎月開き利用者に関する話し合いを職員同士とする時間を設けている。	○	職員の数が充分である時と少ない時がでてきてしまう。現状では土曜日、日曜日の職員体制がも少なくなってしまうので対応策を検討したい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットを固定性にしてある。職員の移動はあまりなく、また番地が代わっても顔なじめるよう職員も時々対応しているので利用者は安定している。2ユニットあり、いつでも両方のユニットの方と交流が出来るようになっている。新人は1ヶ月間ユニット交代があり、両ユニットを把握できるように努めている。異動は1ヶ月間のみ一人ずつ職員が入れ替わりもう一つのユニットを知るために行ったが、それ以外はない。(2)。日中の申し送り。介護計画の参加により他ユニットの利用者の状況を把握し異動の影響を最小限になるようにしている(2)。わからない(2)。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保、講演会への参加。他施設、他ホームの職員が研修や見学に来たりしてお互いに意見交換をしている。研修にはまだ行っていないが働きながら利用者の対応など注意を受けたり対応に関する会議を開いたりして学んでいる。法人内の新人研修があったり、外へ研修に出かけたりしている。新人は前からいるスタッフに1対1でつき学んでいる。リーダーは社外にも頻りに研修に行っている(2)。月に何度か研修があり、社員は参加している。医療機関との連携を常にとっている。	○	職員の要望を聞き研修の機会を増やす。定期的な研修を実施していきたい。当面は、職員の医療に関する知識の向上(講演会等への参加)機能訓練のやり方、指導を取り上げ研修を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流が少ない。他のグループホームより研修に来て意見交換をしている(5)。他施設の方との交流・講習に参加している。	○	地域の他施設への訪問、勉強会への参加等こちらから出向くことにも取り組んでいきたい。他の施設での経験を通じて色々取り入れてサービスの向上をしていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員は公に一人で休憩できる時間帯を設けてある(2)。管理者へ職員が業務ノートに記入し提出することで悩みや何かあった時伝える事が出来ている(4)。ユニット毎に会議を開き、職員同士の気になる点等は意見出てきている。スタッフ同士で声を掛け合い利用者さんをサポートできている(2)。職員間で仲が良いので皆で話す事ができ、相談しあったりできる。笑顔の多い職場だと思う。不十分だと思う。職員個人に任されていることが多い。	○	「両ユニットの職員が交流できる時間を作ったほうが良い」「個々の職員がどのような悩みや問題点を抱えているかを話し合う機会をもうけてほしい」という職員の声がある。職員間の職場外での交流(食事会等)も行っていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務ノートに書いたことに対し返事をもらえる。勤務終了の際、管理者とのコミュニケーションや利用者さんの様子などを知ってもらうため、職員は皆業務ノートをつけている。職員が行ったことに対して厳しく注意してくれたり、誉めてくれたりするのととても向上心が持て責任感をもったサポートができている。職員のことをしっかりと見てくれていると思います(2)。交流する場がもっとほしい。	○	「交流する場がもっとほしい」「個々の職員がどのような悩みや問題点を抱えているかを話し合う機会をもうけてほしい」という声がある。自己評価後の改善課題をチームで取り組んでいけるように計画している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	なるべく話しを聴こうと思うが、他のケアと重なり、葛藤することが多い。業務の忙しさで最後まで聴けずに終わってしまうことがある。聞くことは大事なので受け止める努力はしている(2)。本人の目を通して見学をし利用を決めてもらっている。コミュニケーションを取る時間がたくさんある為、昔の事や本人さんが今何をしたいのか聴くことができる。利用者の行動を見守る事ができるので何を伝えたいのかわかる。	○	本人とたくさん話をしていくことが必要で、利用者本人の言葉に耳を傾けていきたい。職員間の連携の大切さを再確認し、ゆとりを持って利用者の話を聞ける体制をつくる。職員間でお互いに声を掛け合うことの大切さについて話し合っていきたい。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が直接相談している(2)。ケアマネ等を通してながら家族の意見をよく聞き本人がスムーズに利用できるようにしている。家族の意見を聞き家族との交流の中で、不安な事や求めている事を知ることができる(2)。利用者の思いを聞く一方で、家族の思いもしっかりと受け止める事が大切で、何でも相談できる関係になると良い。何度も話を聞き、ホーム全体でも相談し易い雰囲気を作る。家族もケア会議に参加している。知り得た情報を職員で共有できないため不十分な点が多い。家族と何でも話しあえる密な関係ができていないため、家族の本音は聴けずに終わっている。分かりません(1)。	○	家族の方と話す機会をもっと作り、職員と家族との信頼関係を作りたい。情報の共有化をきちんとしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	相談時の家族、本人の状況をよく見聞きし、今必要とする事を考慮している (3)。他サービスの知識も必要になってくる。デイサービス利用者は他のデイ サービスやショートステイの併用をしている。安心できるまで一人の職員がつい ている。努力はしているが、本人が入居を理解できず帰りたい思いが強い場合 はいつまでもなくなる。家族より家でされていた事など意見してもらい今までの 生活と変わらない生活環境を作れるように対応している。本音を言えない利用 者の思いを把握できているか、こちらの思い込みになっていないか不安がある。	○	今行っているケアが本当に利用者の望んでいることな のかを振り返っていきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談し ながら工夫している	家族や本人に他の利用者がどんな過ごし方をしているかを見て頂いたり、実際 に他利用者と交流を持ったりする機会を用意し判断してもらっている。職員は気 軽に声を掛けてもらえるようにしたり、丁寧な対応をしている。家族の思いと本人 の思いが異なっていることも多く、より良い方向へ向かうのに時間がかかる場合 もある。家族に相談しどのような対応をして行けば良いのか意見をもらう(2)。 サービス開始前は、管理者としか相談できていない。共用型デイサービス利用 者は、入居時になじみの職員や馴染みの環境であるため移行のダメージが少な いと思われる。	○	職員の視点からではなく利用者の視点に立って、利用 者は何をしたいのか職員が聞きそれに対しての答え を実行していきたい。家族の本人に対する気持ちを良 く知り、それを踏まえての対応を大切にしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	支え合う関係でいたいと努力している。昔の唄や調理の仕方など利用者の知識 や経験を活かすよう心掛けている(3)。介護に必要以上の手を出す事無く家事 (洗濯、食事作り、掃除)等できることを一緒にしていただき良い関係ができるよ うにしている。介護するというより一緒に何かをするように心がけている。本人の できない部分を手伝うという形で援助している(3)。利用者として過ごす事で自分達 が利用者から日々色々な事を学ぶことがたくさんある(2)。利用者のその時の 感情を大切にし、対応するようにしている。その中で喜びや悲しみを共有できて いる。いつでも人生の先輩であるという視点を持ってケアにあたっている。理念と いう形では頭の中にあるが、心からそう思っていない。心の中で客観的に過 してしまう自分がある。	○	利用者が今まで得意としていた事をする事で他の利 用者にも共有し教えていただきながら楽しみを増やし ていきたい。本人が気持ち良く生活できるような関係 でいたい。利用者とは話をする機会も増やしてい きたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えてい く関係を築いている	面会時には利用者の日常生活の様子等も伝え合っている(4)。よく訪問をされ る家族の方には、話をしたりコミュニケーションができていますが、訪問の少ない方 にはできていない。家族と相談、連絡を取りながら利用者のケアにあたること ができています。対応した職員は話をしているが、職員全体にその内容が上手く伝 わっていない。家族に利用者に関する事で度々電話で連絡している。ケア会議 で決まったことを相談して一緒に本人を支えていこうとしている。行事に家族を招 待し、利用者と家族と一緒に楽しむ場面をつくっている。家族の喜怒哀楽を受け 止めている。家族の方で随分職員に気を遣っているような方もおり、距離を感じ てしまう。	○	家族の意見をもっと聞いていける関係にするためにも 行事や外出に参加していただくことでよりホームとの 交流を深めるきっかけとしていきたい。職員が皆考 えを共有できる方法を考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に色々な事を聞いてより良い関係を築いている。本人の様子が分かる行事等への参加を働きかけている。利用者と家族とが交流できる時間はなるべくスタッフが間に入らないようにしている。家族との時間を大切に使う、今の利用者の状態など知ってもらえるようにしている。日々の会話の中で利用者から家族のことは聴いている。以前はどうだったか家族に聴いている。家族と本人の関係は複雑で、介入するのが難しい。これまでの関係については理解できていません。努力しているが、職員全員が内容を共有できるように工夫が足りない。	○	利用者一人一人の毎日の状況の把握。出勤日でない日に起こった事故も細かく把握し家族が見えた日に漏らすことなく誰もが伝えていきたい。職員が情報を共有できる方法を考えていきたい。本人と家族との関係をもっと理解できるようにしたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の昔の事を聞いて支援をして行きたいと思う。利用者が過去と現在が混同していても過去のことについて話している場合は大切に聴くようにしている。馴染みの人も高齢で訪問は少なく入居という事で保っていく事は難しくなっている。馴染みの人が訪ねてきて忘れていた場合も多い。行ける範囲に限りがあるが、行ける所は本人も一緒に出掛けたりしている。又思い出の地へ行けるように計画を立てるなどしている(2)。送られてきた手紙は本人に手渡している。はがきや電話をしながら、親戚や知人などと連絡を取り合えるようにしている。町内の神社で行われた手筒花火に参加。その場しのぎで行い、終えていることが多いような気がする。	○	住み替えた事で本人が緊張感や安定感を失わないよう関わっている人にはなるべく足を運んでいただくことでスムーズに慣れ生活できるようにしたい。例え忘れてしまおうとしても、一人一人の利用者の思いを実現するため、馴染みの場所(住んでいた所)へドライブ等で足を向ける取り組みもしていきたい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士と一緒に調理をしたり、散歩に行ったりしてコミュニケーションを取れる機会を作って見守っている。毎日の献立会議では全員がテーブルを囲みお茶を飲みながら会話する場面を作っている。普段の流れのまま一日が過ぎていくことが多く、なかなか支え合うような関係が築けない時が多い。相性が合わず衝突してしまう時などは衝突が起きないように相性に合わせて席には気をつけている(3)。一人でいたい時、眠たい時等本人の意志を尊重しながらリビングでは皆で話し合い等楽しい雰囲気を作るようにしている。孤立してしまう利用者もいる。言い合いになったときにはスタッフが間に入ってとめる。孤立しないようスタッフが仲介している。	○	利用者同士の関わり合いにもう少し目を向け関係の支援を行っていきたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後のケアや行き来は出来ているかはわからない。時々家族の方が見えている。元利用者の家族がたまに遊びに来る。関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。継続的な関わりを必要とする場合にはできるサポートは行うように考えているが、死亡、入院や療養型、特養への転院・転居が多く、今のところ継続的な付き合いを必要とする方はいない。	○	サービス終了後も行事などに招待していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に利用者の意志を中心で行っている。体調などにより、職員で判断する場合もある。一人一人の希望等検討し、それにむけて努力している(2)。利用者が今したい事を常に考えたり、意見で出してもらった事をスタッフ同士で話し合い利用者が一日一日楽しい生活ができるように考慮している。利用者本人の言葉を大事に記録に残し、本人の望む生活に近づけるように支援していく。センター方式のCシートを取り入れ利用者一人ひとりの思いを読み取ろうと努めている(2)。ケア会議では本人の言ったことを現状にあげケアを考えている。本人とどうしたいかなど話している。研修等をおこなっているが反映はされていない。意向を表すのが困難な方の希望を本当に把握できているか分からない。	○	望む生活や希望を聴くことはできるが、それを実現するための全職員の知恵の出し合いを働きかけていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は個々の個人票に目を通し把握できるよう努めている(2)。利用者がこれまでどのような生活を過ごしてきたのか、ケースなどの経過から知り、そこから今の生活に取り入れられる物は取り入れて行っている。利用者本人に聴いたり、生活歴や、様子などから利用者の事を新たに知っていくようにしている。必要最低限で把握している。記録物としてファイルされているがあまり見えていない。充分にできていない。ソフト面では家族から聞いた情報を活かしきれていない。少しは取り組むが継続して取り組むには職員の根気がいる。	○	趣味や昔は裁縫や事をやっていた方の多くも今はやりたくないという利用者の言葉で実現できていない。やっていく方がいいのか疑問である。過去の記録にもっと目を通すようにしたい。ソフト面で活かしきれないのは何故か検討をしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝のミーティングで昨日の利用者の生活、心身状態等を把握し注意する人に対して特に気をつけて接している。生活記録表に一日の状態を何をしたかや心身の変化、何ができ何ができなかったのかを具体的に記録し、スタッフ全員が現状を把握できるようにしている。とくに利用者が日常生活で、何気なく行ったこと、発した言葉を大事にし記録に残しておく。社交的な利用者にはお茶だしを頼んだり、役割を持つことで生活にはりが出ている。ケア会議で現状を把握している。一日の業務の流れに追われてしまい、現状を見過ごしてしまいがちである。	○	出勤した時点で現場にすぐ入って欲しい。記録表を見て一人一人の状況を少しでも知った上で働く必要がある。余裕を持って出勤しなければならない。などをそれぞれの職員が自覚して実行していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者18名についてのケア会議を毎日2ユニットの職員皆で行っている。モニタリングシートの記入やユニット会議、ケア会議など利用者に関する話題に対してチームで考え現状を把握し、それに合った利用者本位の介護計画を立てている。ケア会議に本人や家族に参加していただき意見をもらっている(2)。家族に相談してケアを決定することもある。毎日利用者と職員同士で介護計画を作成しているが、スタッフ間のみのお話し合いで終わってしまうことが多い。視点が狭くなってしまふことあり。試行錯誤しながらやっている。参加する家族は少なく、医者と話合うことはできていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日一人ずつ順番にほぼ18日間に1回の割合でケア計画の見直しを行っている。改善できたケアの目標はスタッフ間で話し合い、又別の事実から出てくる目標に関してケアの内容を考えて実行する事ができている。一人一人の利用者さんに対し、職員それぞれができる事、できない事を記入している。自分の見ている利用者の姿しかわからないので、他の職員から見たそれぞれの利用者の姿も知りたい。それを生かし、介護計画を考えていく。緊急の変化が起きた場合はすぐに見直しを行う(4)。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を見て、職員で見直しをしている。個人日誌を記入して、介護をする上での悩み、利用者のその日の状態などを伝える事で管理者に細かな情報を知らせている。生活記録表や食事量記録表に利用者一人一人の一日の出来事を記入し、職員間で情報を共有している。利用者の一日の生活の様子や職員がどの様に関わっているのか等を記入するようにしている。成功例を記録している。ケア会議や申し送り時に情報共有し実践できている。ケアに生かせるよう記録を見直しに活かしている(2)。記入漏れがあったり、詳しい内容が書かれてなかったりすることあり。	○	記録の記入漏れの原因をそれぞれが振り返り、記録のし忘れに注意し、記入漏れは改善し、記入をもっとしっかりし、利用者の新たな発見につなげていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週に1回家に帰って泊まったり日中家族と過ごしたり自由ができる。利用者や家族との間にすれ違いがある時は職員間で考え、どういった対応をすればいいのか家族に助言などしている。本人の希望に応じ柔軟な対応をしている。デイサービス枠は1事業所3名なので、緊急の預かり宅老ができないので柔軟性を生かせない。介護保険課に確認したところ国が決めた指定基準は市が変えることができない。分かりません(1)	○	緊急時のショートや宅老などの受け入れについて、市役所に可能にならないか引き続き働きかけていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	気功、歌、フラダンス等で本人の楽しみを増やして頂いている。教室後の茶話会も利用者は楽しみにしている。(2)消防による訓練も行なう事あり。利用者が突然いなくなった際は家族に支援を受ける時がある。行事の際は善意銀行などから物品を借りたりして支援していただく事がある。民生委員の方が訪問に来られたり、ボランティアの方の協力により教室等を行っている。校区市民館で行われる趣味の作品展に参加している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者のケアマネジャーや他施設のケアマネの方がこられ、利用者の状態を見たりしながら、意見をくれたり、話し合ったりする事がある(2)。他のサービスを利用している方や今後利用する予定はない。わかりません(1)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護では社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業を活用している。地域包括支援センターには、毎回運営推進会議への出席をお願いしている。要支援2で火事で家を失った方は、認知症は軽く在宅での生活も可能だと思われたが、これから家を建て直したり家具をそろえてのアパートでの独居生活は難しいこともあり地域包括支援センターからの紹介で利用となった。わからない(4)。	○	職員全体への情報の共有化を図っていきたい。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各医療機関を決めていて何かあれば敏速に対応できるよう努めている。家族の方に電話をして理解して頂いている。かかりつけ医には優先的に診てもらうことができる。以前からのかかりつけ医がいいという家族はそこを利用しているが、病気・けががあったときすぐいける場所を協力医療機関としている。緊急で違う病院を受診した場合は受診結果を報告し再度かかりつけ医にて受診を行う。一人開業医が多くいざというときの往診や訪問看護が期待できないことが不安である。	○	在宅診療体制の充実、地域医療の充実をお願いしたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームに担当の主治医があり利用者さんが安心できる体制ができていると思う。専門医との連携は常にできている。認知症専門医の診察を受け、職員と医師で相談している(2)。利用者の日常生活の様子などを利用者により相談している(2)。わからない。	○	きちんとした診断治療が行われるように、利用者の様子や状況確認をきちんと行う。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度訪問看護師の方がきている(4)。検温、話し掛けるなどして定期的に状態をチェックしている。看護職は利用者の毎日の健康管理(血圧、体温等)をしながら相談にのっている。専門職がいてくれて心強い。訪問看護師さんとの関わりから健康に関して意見を受ける事がある。看護師免許を持つ職員により健康管理を行っており、相談もしている。(2)。往診や緊急時の時には、医療連携体制はあるが、あまりうまく活用できていない。	○	常勤の看護師がいてくれたほうが安心できるが、それ以上に地域医療に熱心な往診できる医者を必要としている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	職員同士の連携が取れているので安心だと思う。入院した時はあまり迷惑にならない程度に本人が寂しくならないようお見舞い等職員の顔出しをして安心感を与えている(3)。何かあった際は常に家族に報告し、準備を整えられる体制を作っている。家族の意見に従い病院と相談しながら対応している。(2)職員が順番で利用者の元へお見舞いへ行き、様子確認などしている。わかりません(1)	○	家族との情報交換、医療関係者との情報交換を行い、今の利用者の状況などを記録しスタッフ間で共有を図る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いは必要だが、本人を含めては難しい問題だと思う(2)。何かあったら利用者の状態を連絡するという形をとっている(2)。主治医に相談しながら対応にあたっている。終末期をどこで過ごすか、医師、家族と相談しながら決めている(2)。事前指定書を家族と交わしているが、更新をしていない。本人や家族の望みに近づけるようホーム全体で話し合ったり、本人、家族も含めて話し合いをしている(2)。どのような方針なのか一人ひとり理解していない。	○	事前指定書の中身を職員に周知させると共に6ヶ月ごとに更新をしていきたい。本人の意思確認ができる早い段階で具体的に話し合いたいが方法が分からないので研究していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期であってもなるべく住み慣れた所での生活を続けられるとよいと考える。利用者のADLの把握に努め、ケア会議でスタッフ間で話し合い今できる事を考えている。家族にどのような状態であるかを報告し家族さんから意見をもらう。たけのこ内では、できないことやもしもの時は医師にお願いしできることは精一杯やってもらっている。医師や家族と相談しながらケアを決定している(3)。具体的にどう動くかは、職員個人に任されていることが多い。職員が利用者の日常生活の中でできることできないことを見極め一人ずつ援助を行っている。それを参考に皆で支援をしている。急変をする利用者の方もいると思うので職員は日々の関わりが大切だと思う。	○	終末期ケアについては勉強不足なので、勉強会を開き終末期ケアに取り組んでいきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院などで一時的にホームを離れるときなど、職員が病室を訪問し様子を見に行くなどしていた。入院時や療養型への転院に必要な情報提供を行うが自宅へ戻るための支援は行っていない。分かりません(2)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	時々、心無い言葉がけがある。記録はありのままの状態を必要な範囲で記入し、こちらの思い込みの症状として記載しないよう心掛けている。プライバシーには気を遣って話している。人生の先輩というのを頭に置き対応できているが、同年代に話す言葉掛けになってしまうことがある。利用者の自慢できるような部分はほめ、けなすようなことはしない。なるべく丁寧な言葉遣いをするようにしているが相手に伝わりにくい場合もあるのでその時によって使い分けている。誇りやプライドを損ねるような対応はしないよう努めている。利用者の情報は他にはもらさないよう気をつけている。記録等も含め保護は万全ではない。排泄ケアについて知られたくないことや聞かれたくないことも声に出してしまうことがある。	○	年長者に対する尊敬が、生活の中で馴れ馴れしくなり、友達口調になり、見下すようになることを職員間でチェックしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	色々な場面で本人が興味を見せた時、職員に向かって話し掛けた時ゆっくり聴く雰囲気を作っている。利用者といつでも一緒に考え意見してもらいながら調理などの日常生活を行えている。ケア会議時に本人に直接希望を聞いている(3)。職員のみで判断せず本人の同意を得るようにしている。教室がある日には、一人ひとりに対して～がありますと声をかけ行動を促している。教室参加が日課となっている利用者には本人の体調を考えて参加を考えている。忙しさを理由に職員側の都合を押し付けてしまうことがある。	○	本人が希望とする事、行きたい所、やりたい事を今一度伺いケアを行っていききたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	2～3人の希望に添えても全員の希望になかなか添えていない。本人のペース等聞いて過ごしてもらっている。寝たきりにさせないように気を遣いながらもその人のペースで生活できるよう支援している(2)。一人ひとりがその日の中でしたい事をしたいが、職員の数、他利用者が危険になってしまう恐れがある場合等、希望に反した支援を行ってしまう時がある。職員の数により添うことができない場合もある。介護度の高い方を優先してしまう。教室は行きたい人が出ている。利用者が過ごしたい場所でも過ごしているその方のペースを大切に決して無理には行かない。落ち着かなければ見守ったり程よく距離を置きながら話を聴いたり傍で見守る。スタッフの価値観を押し付けていないか不安である。	○	職員が少ない日は散歩へ行くことができない。2ユニットあるので互いに職員が協力し合うようにしていきたい。しっかりと利用者の意見を聴き、スタッフも対応できる時間を作って今後利用者の希望に取り組んで行けたら良いと思う。暇な時間の活用を考える。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	できている人もいるが、多くは本人の希望を知ることができない。スタッフが家族に聞いて本人の望む店に行ったりしている。理容、美容に関しては本人の希望とする店に行けるよう努めている(3)。洗髪の際は最後に櫛でといたりしている。自分達が逆の立場になって考えながら支援できている(2)。身だしなみやおしゃれにおいてはなるべく本人を選んで頂くようにしている。時にはお化粧品をしている。たけのご美容師(1000円)も切ってくれる。本人が着たい服をなるべく着てもらおうようにしている。いつも同じ服を着ておりサポートが不十分。	○	毎日の日々の整容、髪を溶かしたりの身だしなみ等心掛けていきたい。(2)以前利用者が行っていたお店などを調べ一緒にいきたいと思う。お化粧品など喜んでくれる利用者もいるので時間のあるときなどできたらいいと思う。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	そうしたいと心掛けているが、それぞれの価値観があり、入居者同士が衝突する事が多々ある。できる人には食事を作ってもらいコミュニケーションを取っている。好き嫌いは少しずつではあるが、把握している。味付けは分からない。献立会議でどのような物が食べたいか皆で毎日話し合う機会がある。皆で献立を考えているが、意見が出にくい(4)。利用者とスタッフが一緒にキッチンに立ちその方のできることをやってもらっている。食事準備、配膳や片付けは利用者能力合わせて支援しているが、やれる人が限られている(5)。一緒に席で色々話しながら食事している(3)。	○	利用者の意見が出やすいように献立会議を進める工夫が必要である。今後もリハビリもかね配膳、下膳はなるべく利用者自身にやっていただくようにする。時間に追われないようようにゆとりを持って食事作りを行っていききたい。一人一人の好みや味付けの把握していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	制限はあるが、お酒、煙草、甘いものは好きな時に楽しめるようにしている(5)。利用者の中にはビールを飲む方もいる。飲み物はお茶、コーヒーや紅茶、ジュース、牛乳等好きなものが飲めるよう用意している。おやつはいろいろな種類のおやつから選んでもらっている(3)。利用者のそしゃく力などや好みによっても変えたりしている。家族の意向、本人のもっている疾病もあり、好みに応じきれていないこともあり。本人の身体の状態に応じて提供していると思う。共同生活の為一人一人に合わせて好みの物を出す事は難しく、皆一緒に物になっているが好みは聞くようにしている。中庭でタバコが吸える。	○	医療機関、家族、本人と十分に話し合いっていくことを大切にしていく。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターン、本人の気持ち、尿漏れなど様々な状況があるが、本人の能力に応じた支援をしている(3)。時間や動作を見て支援をしている。トイレへの声かけは一人一人のペースに合わせて行っている。適度な時間にトイレ案内している。夜間は排泄パターンに合わせた時間にトイレ案内している。おむつ使用者はおらず、昼間は全員布パンツ、夜間は人により紙パンツを使用している(3)。時間帯によって布パンツから紙パンツへ、その逆へと交換という方がいるので何時にそれを行うかしっかりとスタッフが把握しておく。全てが洋式なので和式トイレを必要とする方がいても提供できていない。	○	排尿・排便があった時間の記録、様子などもしっかりと記録に残していく。和式トイレがつかれないか検討をする。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっておらず、好きな時間に入浴できる(2)。夜入る方もいる。入浴したくないと言うことが度々あり、希望通りにはいかないことが多い。スタッフも一緒に入る様になっている。無理強いはいないようにしている(4)。どちらかというスタッフ側の判断で入浴にあたってしまっています。シャンプーハットの使用をしながら洗髪が苦手な方でもできるだけ洗えるような方法をとっている(2)。	○	身体の事でわからない事が多い。パートにも入浴介助をさせて欲しいという声については検討をする。利用者の入りたいタイミング入るのがベストだと思うので、一人一人の意見を聞きながら楽しい入浴を継続していく。入浴の方法も考えてもっと充実するための検討を行っていく。入浴の声かけでどうだったか記録していく。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中でも「眠い」、「眠たい」時は無理やり起こさず夜眠れなくなる程度に休んでもらっている。疲れた時などには無理して起きていてもらわず休んでもらうようにしている。寝る時間も決めておらず好きなときに寝ることができる。一人一人の体調や言動に配慮して居室案内や水分補給、バイタルチェック等行っている。昼夜逆転しないように日中活動してもらっている。眠れない利用者にはスタッフが話を聞いたり一緒に添い寝をしている。そこで歌を歌ってくれたり顔や髪をなでてくれる。自然と落ち着く。夜間のトイレ案内に関して無理に行うことはしない。充分とまではいかないが、やれているのではないかと休んでいる方の様子を伺うことは不十分である。	○	通所利用者の休むところがなく、ベッドが1つあるがそれだけでは少ない。ソファでも休めるが、ベッドで横になった方がいいのでは？デイの人の休息方法、個人的な部屋がないので検討をしていきたい。熟睡している方の状況確認も必要ではないか。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴に合わせ畑仕事、ゲートボールや囲碁、カラオケなどを行っている(3)。居室に仏壇があり、ご飯を毎朝お供えている。一緒に行動を促せるのは2~3人で、それぞれ動く方が多く、まとまった形での支援は難しい。家事は偏った利用者さんに頼む事になり、全ての利用者の参加の機会を提供できていない。炊事を1ユニット分にするると沢山で疲れてしまっている姿もみられる。自立のできる方は楽しみを見つけながら生活をしている。楽しみのない人は孤独になってしまう。昔何をしていたのか、趣味を聞き、しっかりと把握し、その方の習慣を学ぼうとしている。その人のできる事をやっていただきなるべく皆で共に楽しめるよう支援している。一人一人自分の力を生かしてきている。	○ ケアにもっとその人らしい生活で日々充実した生活を送るためにはどうしたらいいのかもっとスタッフ同士で話し合う必要がある。一人一人に合わせたアクティビティを行う時間をもう少し増やしたい。利用者が今までやってきた趣味や楽しみをここでも変わらずできると思う。利用者の色々な表情がうかがわれると思う。職員に余裕のあるときなど簡単なレクリエーションが皆でできると思う。一人一人の生活歴や力を活かした役割や楽しみごとと気晴らしの支援をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金で領収証、金銭出納帳で管理している方は7名。立替払いで領収書と引き換えに清算をしている利用者が7名。使える人にはその人なりの支援をしている。事務所で管理している(4)。お金の管理が出来る方は自分で管理し、お小遣い程度に持ちほしいものを買っている。何か行事があったり、外出する場合は一人一人均一の所持金(500円)を持ち好きな物を買っている。何を買ったかいくら使ったかレシートをもらう(2)。お金を使う機会が少ない。	○ 昔ながらの駄菓子やを開店できないか計画している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の日以外の散歩、買い物への連れ出し等外に足を向けるよう努めている。月1回ほど外出している(5)。また時間や余裕がある時やスタッフ多いときにははドライブに出かけている。外出が一人一人の希望に沿っていけない。個別ではほんの一部の利用者である。家族の方と外出している利用者もいる。散歩は本人が嫌だと言われた場合には強制しない。	○ 車で10分でも良いと思う。散歩も10分程度歩く様にしたらどうだろうか。外出をもう少し増やしたい。利用者さん一人一人の希望を聞く時間を設けて、それによって一日一日外出に行けたらいいと思う。希望にそって出かけられる機会がもう少しあると良いと思う。馴染みの公園や場所に出かける機会をつかっていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ボーリングへ行きました。すごく楽しみにしていると思う。集団生活という所に利用者さんが気を遣い自分だけ、個人的希望はあまり言えないという事をよく言われる。外出や買い物、食事へ行く等機会を作っている。ケアプランの中等に外出したいなどプランが挙げられている方のプランに沿って皆で外出することがある。月に1回外出の日をつくり計画を立てに行っている(2)。外出先は利用者さんと相談して決める。自然をよく観に行く。その様子をきちんと記録していく。	○ 声かけしても行かない人はどのようなしたら良いか取組んでいきたい。買い物支援(本人の欲しいもの)や温泉に行きたいと声があるが行けておらず計画し行ってみたい。体力面等の不安のある方は安心して楽しめるようなケアを工夫していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はスタッフにかけることを伝えればいつでもかけられるようにしている。家族の意向もあり、難しいが、家族の了解があれば自由にできる(5)。プリペイド式携帯電話を事務所に預け家族と通話している方もいる(2)。家族や知人から送られてきた手紙に必ず返事を書くようにしている。手紙をポストに入れに行く(4)。年賀状を出している。	家族が繰り返しの電話がかかってくるのが負担となることもあり、間をつなぐことが難しい。家族の思いと利用者の思いと両立が難しいため、今後ともよく話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	季節の変わり目のとき寝具や衣類の入れ替えをお願いしている。訪問者がある時は利用者と共にゆったりとした時間を過ごしていただけるよう配慮している。訪問された方々との時間を大切にしてもらうようにしている。なるべく本人の部屋で過ごしてもらうようにしている。特に制限は無く自由に来て頂けている。玄関が開放されておりいつでも人が出入りできるようになっている。訪問の際にはお茶を出しゆっくりしていただけるようにしている。スタッフは訪問をされた方に対してあいさつを忘れないようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念に入っている(3)取り組んでおり、やれている(3)。着替え、移動をしたがらない方がいて支援する事が少し拘束してしまっているのかなと悩む事がある。一人一人に対して常に目を向けているが身体拘束はしないケアをしている。身体拘束にあたることはしていない。利用者さんは普段自由にホーム内を歩き来ている。一人で出ると危険な利用者については話をして気分を紛らしたり、一緒に散歩へ出かけ話を聴く。法律に関しては理解していない。	○	身体拘束・抑制とは何かの研修会を行い、自分たちのケアと照らし合わせていきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は開いている(4)。玄関のところにチャイムがなって分かるようになってはいるが、最近はないときとなっていないときがある。スタッフ意識して人数確認を行う。理解はしているが、会議やスタッフの数が少ない時は玄関の鍵を閉める事あり。必要最小限に鍵は掛けないよう努めている(2)。居室の鍵は本人が閉めない限りは常にあいている。	○	職員がケアに精一杯になってしまっている部分があるので、しっかりと職員同士で連携を取る必要がある。全体を見渡せるリビングに常にスタッフが最低一人はいるよう連携を蜜にする体制ができないか検討していく。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在のわからなくなりやすい利用者さんにはセコムを利用している。利用者の所在には常に気をつけ職員同士で声を掛け合っている(4)。スタッフの目の届く範囲内に利用者があるようになるべく利用者がバラバラになり過ぎないように配慮している(2)。外出を見逃して探しに行くことが3ヶ月に1回程度ある。所在が分からなくなったら何人も職員で探しに行く。部屋にこもっている利用者に対しては時々様子を見に行くようにしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態によく注意し物によっては目の届かない所に置く、ぶら下げる等努めている(2)。倉庫を設けて飲み込んでしまう恐れのある物や普段使わない物品は保管している。異食がある方はスタッフが注意し見守っている。包丁はすぐに片付けている(2)。生活範囲が重なっているため、一人一人に応じた対応は充分といえない。	○	危険なものを飲み込んだりといった事故が起こらないようアセスメントをしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	気をつけていて、事故防止に取り組んでいるが、充分と言えない(2)。消防署の方がホームに来てくれて救命講習、火災訓練を行った(2)。毎日のミーティングで特に注意する人は頭におきながら対応、職員同士での声かけを努めている。外に出て行ってしまう利用者さんにはセコムをつけてどこにいるのか、もしいなくなった場合には位置がわかるようにしている。危険を招くような物は普段スタッフが保管している。異食をする利用者もいるので異食しそうなものは取り除いたり、注意したりしている。包丁の使用時は見守りをしている。転倒しやすい方の転倒事故を防げないときがある。薬は日付を書いたり、名前を書いたカップにいれ誤飲防止している。角にはぶつけてもけがをしないようあてものをしている。	○	転倒のリスクが高い方等の見守りをしっかりそばについてできるようにする。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命の講習を期間的に行って知識をプロから教わっている(6)。もしもの事故の為の定期的な練習はできていない。職員同士で協力し、素早い対応が出来るよう全ての職員が訓練に力を入れている。突然倒れて、救急搬送をすることが3ヶ月に1回程度あり経験的に身についてきている。緊急時連絡先など家族に連絡が取れないことがありあせる。既往歴など正確な情報を把握していないので、病院で聞かれたときに困る。	○	定期的に講習や勉強会を繰り返し受けていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	地域の人々の協力への働きかけはない(2)。週1で行っていたから少しは身につけていると思う。夜勤帯については(一人)なので冷静に対応できるか不安である。はっきりわからない(2)。普段より施設の様子を知っていただき協力が得られるよう努めている。避難訓練を定期的に行っている(5)。地域の方々の参加はできていない。計画がきちんと立てられていないときがある。	○	災害時は限られた職員なので様々な状況を考えた訓練をする必要がある。マニュアルの徹底。定期的な訓練の実施し、夜間帯の時、天候の悪い時など具体的にどう誘導するのか検討していく。デイ利用者や地域の方も訓練に参加してもらい、災害が起きた際どのような対応をすれば良いのかを共有することが必要だと思う(2)。火災報知機や消火器などの器具の点検を忘れないようにする。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その人その人のADLから前もって危険があることはスタッフ間で話し合い、家族さんに連絡し、実施している(2)。どんなリスクがあるか家族に伝えている(3)。家族と相談し本人の意向も聞きながら対応策を考えている(2)。よくできている。分かりません(1)。抑圧感のないケアに取り組んでいるが、安全面の配慮に関しては不十分。	○	のびのびとしたケアのため、リスクが軽視される傾向がある。家族とよく話し合っていくことが大切。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	その場その場で対応しているが、食事、排泄、入浴などを通しての継続的な一人一人の状態を掴みきれていないことがある。体調の悪い人の数日間の様子を頭に置き少しでも異変に気付くと記録に残し情報共有し早めに対応するよう努めている(3)。表情や身体状態を日頃から注意し、バイタルチェックや、より良い受診を心掛けケアにあたっている。変化や異変があった場合記録に書いたり、申し送り時に報告し、情報共有している(2)。家族連絡し早期病院受診をしている(2)。スタッフ間での情報交換が上手にできていない。全体への報告が不十分。	○	記録をつけるのみでなく、スタッフ皆が本人一人一人の継続的な把握をするよう徹底していく。一人一人の体調を観察する。前日の様子を見て判断する。しっかりと連絡ノートや連絡網にて情報の共有がしていけたらいいと思う。看護師、管理者に報告し事態の悪化しないよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録で職員一人一人が確認できる(2)。薬に日付などを書くようにしている。飲み忘れがないか生活記録のチェック欄でチェックしているが付け落としもある。手渡しきちんと飲むまで確認している。その日服用しなくてはいけない薬等を忘れずに投与するが、目的、副作用等まで知識がない。薬の保管はスタッフがやっているの、しっかりとどこに誰の薬が保管されているのか、薬間違いがないように努めている。薬に関する説明を記録に貼り目を通せるようにしている。目を通して理解まではできていない。パートはあまり関わっていない為理解が乏しい。わかる職員に聞いて対応している。把握は必ずしもできていないとは思わない。	○	職員間で確認し合う。服用している薬が必要なのか、又、近頃様子が変わったか。薬の効果など話し合う場を作っても良いのかなと思う。薬が出された時の全職員への報告。薬の種類をしっかりと認識し、どういった効果や副作用があるか調べる必要性がある。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず食べもの水分、運動等を工夫して取り組んでいるが、なかなか本人の気持ち、意志と合わず、上手くいかないことがある。朝の体操への参加。散歩はなるべく均等に行くようにしている(4)。味のある飲み物を提供しており飲んでいただけている。便秘対策を必ず行う。便秘の方が多くが一人一人の対処法については行き届いていない。便の状態、間隔等一人一人のことを理解し飲食物等も職員で話し合いながら対策している。利用者さんの体調に合わせた食事形態をとっている。朝食にスキムミルクのヨーグルトをつけたり、牛乳や便秘茶等の提供などを行っている。家族と相談しお茶やヨーグルトで便秘予防している。医療機関へ相談をして服薬について相談をしている。	○	どのような工夫ができるか検討し、職員間で共有する。便秘に対してのメニューは考えていない。便秘や他の病気になる時の別メニューをスタッフ間で話し合い作る事が必要だと思う。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は歯磨きをする様心掛けているが、本人にうまく伝わらず、できないことがあり、全利用者毎食口腔ケアはできていない(5)。夜はできているが朝・昼はできていない。言ってもわからない利用者に対してはどのようにしたら口腔ケアが行えるか？口臭の強い方にはうがい薬を使用している(3)。週2回ポリドントを行っている。	○	どのような工夫ができるか検討し、職員間で共有する。スタッフ間で交代したり声を出し合いながら、食後全利用者の口腔ケアにあたるよう配慮する。毎食後の歯磨き。歯科医の方を招く等口腔ケアの勉強会を開く。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量を生活記録表に記録し毎回チェックしている。食事の少ない方には0~10までの割合で食べた量を別紙で細かい食事表をつけ把握している(4)。利用者の体調や排泄状況等を見て栄養、水分は充分である。毎食3回、おやつ2回、入浴後に水分確保に気をつけている(2)。水分を摂ろうとしない利用者もいるので声かけや工夫をしている。普通食が食べられない方の別の献立や調理法は勉強不足だと思う。個々に合わせた食事形態で提供している。全員の方に応じているとは言えない。病院受診し血液検査を行い、高栄養補助食品を出してもらっている。	○	一人一人今の食事(量、形態etc)でいいか検討し、スタッフ全員で共有していく。食事に関して、個々の摂取量は異なる。一人一人の状態をもっと知るために細かくする必要性があるので、なるべく食事摂取量表を活用して行く。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者のうがい、手洗いなどしている(5)。消毒第一にし洗濯物等別に洗う(2)。インフルエンザは予防接種を早めに行っている(2)。疥癬になったとき対応の取り決めがあり実行できていた。ノロウイルスは対応が分かる(2)。疥癬になった利用者がいたが他の人につくことはなかった。感染症についての資料がファイル化してあるので参考にできる。肝炎、MRSAは知識薄い。対応の取り決めはなく、その場の対応になっている。やれていない。	○	手洗い、掃除、洗濯等スタッフ間で対応の仕方を確認し合う。利用者のタオル類などを消毒する。感染症に関する認識が薄く、対応の仕方がわからない部分があるのでしっかりと知識を身につけていく必要がある。他の感染症についてもマニュアルのようなものがあると良い。対策マニュアルについて検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具を週に何度か漂白したり、日光消毒している(4)。調理用具は消毒していない(1)。やれていない(1)。疥癬の方、風邪の方はなるべくその日の調理を行ってもらわないようにしている。冷蔵庫内の管理に気を配りチェックし賞味期限をよく見、残り物を処分している(2)。冷蔵庫や冷凍庫を活用また、ラップなどの活用をして菌が繁殖しないように努めている。生もの等は期間限定にし、注意している。使い切るようにしている。布巾は消毒している。食中毒発生時は刺身や生ものは禁止している。	○	保管場所の整理整頓を定期的に行う。買い物の際余分な物まで買ってしまい、賞味期限が過ぎてしまったりするので買ってくる量、買い物に行く前の冷蔵庫の内容をしっかりと考え、買い物に行く。定期的に消毒を徹底する。マニュアルを徹底する。
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	自由に入出入りができているし、家族も安心していると思う。玄関は日中はオープンで門の横にはスタッフが作ったシーサーの愛らしい置物がある(2)。一般の家庭のように小物を置いたり、家にありそうな家具を取り入れて、玄関を作っている(2)。たけのこ工房が隣接しておりついでにと気軽に入れる。普通です。玄関の花壇には花を植えている。入り口には利用者の日常生活の様子の写真を飾っている(2)。	○	訪問者が多くなり車でみえる方の駐車スペースについて検討していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物が色々な所に雑然と置かれている。常に清掃に心掛け季節の花を飾る等配慮している(2)。利用者と考えて一緒に机や椅子の移動をしたり、散歩で取ってきた花などを飾ったりしている。光等は天候などにより調節している。特に不快に感じることはない。玄関や窓を大きく、自然の光が入るようにしており、カーテンや電気で調整している。季節の樹木が植えてあり季節感が感じられる。リビング、スタッフルームは雑然としており、家らしさにかけ寂しげな環境である。	○	倉庫の活用を工夫していく。本人持ちの物をどうするか検討する。リビングに花を飾ったりなどもっと季節感が出せる良いと思う。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は自分の好きなところで過ごしている。両ユニットの真ん中にあるスタッフルームには畳とソファを置き少人数で過ごすことができる(3)。居室で過ごす方には時々スタッフの様子を見にいっている。食事やおやつも本人の食べたいところで食べている。皆同じ机に集まった時気の合わない人同士が言い合う事がたまにある。一人一人の個性をよく考え、座る時の位置を考えながら気の合った人、顔なじみの人で落ち着けるようにしている。机を3つに分け、いつでも利用者さんがどこに座っても良い様にしているがグループができており、グループにグループ外の利用者が近づくとトラブルになってしまう。(2)。玄関の内外にベンチがありそこで自由に過ごせる。	○	利用者同士、人間関係に置いて、会う人合わない人がいるので、職員が間に入り、もっとコミュニケーションをとっていく事が必要だと思う。利用者同士の交流場面が少ない、職員がどのようにサポートしていくか話し合っていきたい。家らしい調度品を備えていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が何回も来ているから良いと思う。昔裁縫が好きだった方は、その方が作った暖簾、クッションなどインテリアとして生かしているのが自分の部屋だというのがすぐ見てわかる。清掃に気を配り本人が安心して過ごせるよう又、何がどこにあるのかタンスに紙を貼り、物の出し入れが一目でわかるよう使い易いようにしている(2)。家族さんより家具の提供や物品の提供をお願いし、レイアウトも相談し、居室は個性ある居室になっている(3)。本人はベッドになれているが、ふらつきが出てから安全のため、床に寝ている。本人はその部屋は気に入っていない様子。居室の前に表札をかけ分かりやすいようにしている。居室の持ち込み荷物は個人差が大きい。	○	転んでけがをするなどの事情により、荷物が減っていった方もいる。現在の状態をアセスメントし、家族と相談をし、居室作りを継続していく。服、布団など家族と相談し、家族に入れ替えをお願いする。家族の写真を貼り安心感をもたせたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) ※文末(5)は、同じ内容の評価職員が5名いたという表示である。	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除のときに換気を行っている(4)。窓をすぐに閉めてしまう入居者の方が多い。心掛けているがすぐ外へ出て行かれる方がいて会議時等閉めることがある。本人の希望がないため各居室の換気ができていない。朝の換気、天気の良い時窓開け等気を配り、暑さ、寒さもその人の状況に応じて調整し冷暖房をするようにしている(2)。身体状況や気候に合わせて室内環境を整えている。朝の掃除の時間は窓を開けるようにしている。温度はエアコンで常に配慮している。室内に温度計、湿度計を置き空調を管理している居室もある。	○	尿臭などいくらスプレーしても消えない方の居室は消臭ポットなど設置して常に快適であるよう務めたい。すぐに窓を閉めてしまう方には何回かに分けて窓の開放を行っていききたい。
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	道路から玄関までスロープになっている。なるべく段差のない床になっている(2)。車椅子でもスムーズに移動できるようになっている(3)。トイレ等、追加の手すりをつけたりして本人が自分で出来るようにしている(3)。自分でできる人は自分なりに努力してやっている事がある。危険な物は置かないように広い空間と捕まり棒等で転倒防止に努めている。リビングは広く見渡せ職員の目が行き届きやすくなっている。手すり等があり安全面に工夫している。椅子や便座の高さが同じである。高めの方もいる。	○	ベッドから転倒する方が多いので全員のベッドに囲いなどをつけたほうがいいのか、一人一人の体に合わせた高さにはできないか検討していききたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の各部屋に表札をかけているので、それを見て居室へ入る方もいる(3)。それぞれの居室の入り口を個人の暖簾等を掛けて、個人の特性を生かそうと心掛けている。職員が言葉掛けを多くし行動を良く見てやりたい事や行きたい場所を気づき本人の気持ちに混乱がないよう又、失敗を防ぐようにしている。一人一人できる部分を役割分担して行おうとしているが、利用者さん同士の人間関係もあり、できていない部分がある。混乱や失敗のないように職員が分かりやすく支援している。分かる部分は見守り、分からない部分の援助に心がけている。トイレだけでなく便所と表示している。タンスにはどこに何が入っているか貼ってあり利用者が洗濯物をしまえるようにしている。利用者の方々の失敗を上手くフォローしていくことが大切であるが、できていないことが多い。	○	利用者同士の協力に関して、職員間で話し合い、利用者同士のコミュニケーションにも取組んでいきたい。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	少しずつ整備している。花の好きな人には花壇(5)、畑仕事得意な人には畑等提供し、野菜を栽培している(5)利用者が水をあげたり、草をとったりしている。その収穫を利用者と職員で楽しんでいる。庭にはベンチを置きちょっとした気分転換でおしゃべりや簡単なスポーツができるようにしている。又、七夕会、盆踊り等も外を利用して楽しめている。ゲートボール場も作り、運動できるようになっている(4)。	○	一人一人の居室の窓の外のちょっとした庭が殺風景な気がするので花を植えていききたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

平成19年度 グループホームたけのこ(85番地)自己評価

自己評価期間 平成19年10月10日～31日

集計発表 平成19年11月10日

結果検討 11月11日～30日

運営推進会議提出 11月24日(土)

評価期間提出 12月7日

外部評価実施日 12月21日(金)

参加職員 13名

集計者 ユニットリーダー 伊奈 裕輔

V. サービスの成果に関する項目											
項目		職員12名中	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)								
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	2名	①ほぼ全ての利用者の	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		7名	②利用者の2/3くらいの	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		4名	③利用者の1/3くらいの	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			④ほとんど掴んでいない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	8	①毎日ある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		4	②数日に1回程度ある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		1	③たまにある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			④ほとんどない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	6	①ほぼ全ての利用者が	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		4	②利用者の2/3くらいが	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		1	③利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			④ほとんどいない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	4	①ほぼ全ての利用者が	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		8	②利用者の2/3くらいが	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		1	③利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			④ほとんどいない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1	①ほぼ全ての利用者が	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		5	②利用者の2/3くらいが	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		6	③利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		1	④ほとんどいない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	5	①ほぼ全ての利用者が	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		6	②利用者の2/3くらいが	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		1	③利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			④ほとんどいない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	4	①ほぼ全ての利用者が	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		6	②利用者の2/3くらいが	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		2	③利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			④ほとんどいない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	2	①ほぼ全ての家族と	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		5	②家族の2/3くらいと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		4	③家族の1/3くらいと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		1	④ほとんどできていない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1	①ほぼ毎日のように	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		4	②数日に1回程度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		7	③たまに	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			④ほとんどない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

項目		職員12名中	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	12	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	4 8	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 9 1 1	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 9 1	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(自己評価に参加した職員一人一人の声をそのまま掲載している)

管理者から職員、利用者ともみなすべて家族のように暮らしています。皆で助け合い、皆で一緒に考え、悩み、楽しいときには皆で笑います。特に利用者さんから教わるのがたくさんあり、職員は介助しているのではなく、たくさん利用者の方から教わり「たけのこ」という家に集まってきている。そんな事業所です。月・火曜日の気功教室、水曜日の歌の会、木曜日のフラダンスなど利用者さんに生活のほろけを与え楽しんでいただいている。開放的で一人一人に無理することなく何事も利用者さんといっしょに取り組む自宅にいるような家族的な雰囲気作りを心がけている。たけのこ新聞を家族の方々に配布したり、運営会議に参加していただいたりできる限りホームの様子を把握していただけるように努めている。また地域の方を行事に招いたりして地域に開かれたホーム作りを心掛けている。まだまだ不十分な点はあるが地域に根づいたホーム作りをしていき、地域の一部(まるで一つの家のような)として当たり前の存在として地域の方々に認めてもらえるようなホームになるようスタッフ一同で取り組んでいきたいです。